

教 育 研 究 業 績 書		
平成22年 3月31日		
氏 名 佐 久 間 祐 子 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
社会科学・臨床心理学（実務含む） 社会医学・公衆衛生学	学校メンタルヘルス、国際精神保健、障害保健福祉、地域精神保健 臨床心理学に関する実務：スクールカウンセラー活動、 学生相談活動、 精神科デイケアグループワーカー活動、 地域臨床心理・精神保健活動等	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
○ 臨床心理士養成臨床施設（帝京大学大学院）での心理臨床指導	平成17年4月以前～平成18年3月31日迄	臨床心理士養成臨床施設である帝京大学心理臨床センターで助手として大学院生への臨床教育及び修士論文研究アドバイスをを行った。なお、帝京大学心理臨床センターには小・中学校生徒とその保護者も多く来談している。不登校などの行動面や心身の健康面、家族葛藤などの問題を抱える児童期から思春期の方へのサポート及び保護者との平行面接を、外部教育関連機関（教育センター、小・中学校、適応指導教室等）と連携をとりながら行った。大学院生による小・中学生来談者への心理臨床援助に対するスーパービジョンや、教育機関との連携についての指導を行った。
○ 帝京大学大学院における外部（教育機関）実習指導	平成17年4月以前～平成18年3月31日迄	帝京大学文学研究科臨床心理学専攻(修士課程)大学院生への外部実習指導を行った。大学院生の外部実習先は主に公立小・中学校、適応指導教室、不登校児童・生徒のための学校である「八王子市立高尾山学園小学部・中学部」など、学校教育臨床の場であった。これら教育機関や教育センターとの連携・調整を行いながら、発達面、不登校などの行動面、心身の健康面、家族葛藤など様々な問題を抱える生徒の心理及びサポート法や、教育現場における相談活動、教職員との連携等について指導を行った。
○ ゼミ所属学生への学術指導	平成20年4月1日～現在	ゼミ所属学生への科学論文執筆指導を行い、特に優秀な研究に対しては、学会発表を推奨し、発表指導を行った。
2 作成した教科書・教材		
○ 担当講義教材	平成18年4月1日～現在	・講義にあたり概説のパワーポイント資料及びレジメを作成し、学生に配布している。
○ 社会福祉士シリーズ（17）保健医療サービス、佐久間淳，幡山久美子編	平成21年4月15日	・テキストの分担執筆に参加。

事項	年月日	概要
3 教育上の能力に関する大学等の評価		心理臨床専攻（平成21年度の改組後は、人間心理学科）の准教授として授業を担当する一方、本学就任前からの豊富なカウンセラーとしての体験、知識を生かし、学生相談室長として学生の心のケアにも当たった。また、学生による授業評価では、プレゼンテーションに関わる項目が他の項目に比して高いことから、学生の理解力等を踏まえた入念な授業準備を心掛けていることが伺える。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
○ 駿台予備学校学生、保護者、寮生対象メンタルヘルス講演会講師	平成17年4月以前～平成20年3月迄	・大学受験予備校生、寮生、保護者を対象としたメンタルヘルスに関連した講演会講師を毎年、年5～7回程度担当した。
○ 臨床心理士養成臨床施設（帝京大学大学院）での心理臨床指導	平成17年4月以前～平成18年3月迄	・臨床心理士養成臨床施設である帝京大学心理臨床センターで助手として大学院生への臨床教育及び修士論文研究アドバイスを行った。
○ 駿河台学校心理臨床研究会（日本臨床心理士資格認定協会定例型研修会）会員への臨床指導	平成17年4月～平成20年3月迄	・当会会員への心理臨床指導を担当した。
○ メンタルヘルス研究協議会助言者（国立大学保健管理施設協議会、文部科学省等主催）	平成17年11月	・当研究協議会において、大学教職員を対象としたメンタルヘルス研修会の助言者を担当した。
○ 健康生活コーディネーター育成研修（千葉県主催）講師	平成19年7月	・千葉県主催の健康生活コーディネーター育成研修会講師を担当した。
5 その他 特になし		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許 ○ 臨床心理士 ○ 精神保健福祉士	平成 12 年 3 月 31 日 平成 12 年 5 月 1 日	(厚生労働省資格)
2 特許等 特になし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 ○ 駿河台学校心理臨床研究会 (日本臨床心理士資格認定協会定例型研修会) ○ Republic of Palau (パラオ共和国) における 精神健康疫学調査	平成 17 年 4 月～ 平成 20 年 3 月迄 平成 18 年 8 月	・学校領域の心理臨床の専門家、精神科医による事例検討会。当会での症例発表・及びメンタルヘルスシステム構築に関する報告を年 1 回程度担当した。 ・パラオ共和国国立病院にて一般住民を対象として、GHQ-28、WHO-QOL を用いてメンタルヘルス調査を実施した。
4 その他 特になし		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 受験生、こころのテキスト	共著	平成18年2月	角川学芸出版（東京） 全235頁（分担 77-78, 129-142, 187-188）	早川東作、元永拓郎：編著 大学受験生のカウンセリングに携わる精神科医・臨床心理士などのこころの専門家が、様々な受験生の悩みとその対処をその経験に基づきフィクションケースとして掲載した啓蒙書。 昭和63年から学校メンタルヘルスシステムを構築してきた本予備学校生活カウンセラーが、20年間の活動の集大成として受験生によくみられる悩み・臨床像とその対処をフィクションケースとしてまとめた。また、メンタルヘルスに関連したコラムも豊富に掲載している。
2 保健医療サービス 社会福祉士シリーズ 17	共著	平成21年4月	弘文堂（東京） 全240頁 （分担118-122）	福祉臨床シリーズ編集委員会：編、責任編集：佐久間淳、幡山久美子 20年ぶりに改訂された社会福祉士の新カリキュラムに合致するよう編成された、社会福祉士テキストシリーズの17巻。このうち、第6章「各専門職の役割と機能分担」の「臨床心理士の役割」について、臨床心理士としての立場から執筆した。
(その他) 【報告書】 1 帝京大学心理臨床センター活動報告 (平成16年10月～平成17年9月)	文責	平成18年3月	帝京大学心理学紀要, 10, pp99-107	T大学心理臨床センターは、平成13年4月に開設し、大学外部からの来談者に対する有料での心理カウンセリング及びT大学大学院臨床心理学専攻大学院生の臨床研修を開始した。本報告書では平成16年10月から平成17年9月について「1. 活動実績について」「2. 大学院実習状況に関して」をまとめた。文責者として執筆全体を担当した。
2 メンタルヘルス研究協議会平成17年度報告書「教職員のメンタルヘルス、アカデミック・ハラスメント―第2分科会まとめ―」	共著	平成18年3月	平成17年度メンタルヘルス研究協議会報告書, pp73-74	著者：金野滋、影山任佐、 <u>佐久間祐子</u> 大学教職員を対象としたメンタルヘルス（学生サポートに関する）研修会の報告書。著者らは当会の司会者及び助言者を務めた。教職員の心の健康問題について、学生をサポートする立場にある教職員が置かれている厳しい状況を概説し、その対処についての提言がなされている。さらに、学校におけるハラスメント相談事例が出た際の学校側の相談体制や、問題を抱える学生を把握し相談・サポートする方法、自殺予防の方法について議論がなされ、その体制作りについて言及している。報告書作成全体に関わっているため担当箇所は不可分。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3 思春期ひきこもりと反社会的問題行動との関連について—“ひきこもり”の下位分類の試み—	共著	平成22年3月	厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究、平成21年度総括・分担研究報告書 pp119-132	著者：奥村雄介、野村俊明、吉永千恵子、布施木誠、千葉泰彦、元永拓郎、工藤剛、月野木竜也、 <u>佐久間祐子</u> 、鈴木圭、鈴木彩乃 非行少年を対象に、思春期ひきこもりと反社会的問題行動との関係を解明することを目的とした。“ひきこもり”概念について再検討し、物理空間活動と情報空間活動の二つのパラメータを導入し、少年非行の下位分類を試みた。さらに物理空間活動パターンを類型化した。
4 大学生の学校適応過程に関する縦断的研究（1）—大学入学時と大学1年前期の精神的健康度—	共著	平成22年3月	日本橋学館大学紀要第9号、pp63-70	著者： <u>佐久間祐子</u> 、柴原宜幸、村上千鶴子 精神的健康度を大学への適応度の指標として学生の大学への適応度を経時的に測定してその傾向を明らかにし、それを基礎資料として、予防的観点から適応援助の対策を立て、その効果を検討した。本報では、速報として、大学生を対象とした受験生症候群質問票（心身健康アンケート；Jukensei Syndrome Questionnaire）の入学時と1年前期7月時（以下、1年前期とする）の比較、及び1年前期に実施した日本版GHQ28（精神健康調査票 The General Health Questionnaire-28）、気分プロフィール検査（Profile of Mood States）の結果を分析し報告した。
5 2008年度日本橋学館大学学生相談室活動報告および現状分析 本学の学生相談室の経緯と現状：学生相談専門スタッフを配置することの効果	共著	平成22年3月	日本橋学館大学紀要第9号、pp99-104	著者：横山哲太郎、 <u>佐久間祐子</u> 、末松涉、佐々木由利子、柴原宜幸、村上千鶴子、中里弘 2000年より学生相談室が運営されている。当初は相談室長及び相談員は心理臨床専攻の専任教員が兼任していたが、教育・指導の役割と臨床家という受容・共感的役割の二重の役割を持つという矛盾した構造があった。2008年度から、学生相談専門の非常勤相談員（臨床心理士）2名を任用し、相談システム上の大きな変更を図った。学内の学生相談室の経緯について利用者数の変遷と新しい相談システムの成果と課題を明らかにした。
【学会等の発表】 1 精神保健教育研究班報告（第6報）法人化後の保健施設等における教育活動の現況	共同	平成17年11月	第27回全国大学メンタルヘルス研究会（秋田）	早川東作、中野良吾、元永拓郎、 <u>佐久間祐子</u> 国立大学の法人化後の保健施設等における教育活動の現況をまとめた。研究全体に関わっているため担当箇所は不可分。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2 Psychological Aspects of Mongol Inhabitants Measured by GHQ-28.	共同	平成17年11月	The 37th Asia-pacific Academic Consortium for Public Health Conference, Taipei.	M. SAKUMA, D. SODBILEG, T. KAWABATA, Y. KANEKO, F. KOMATSU, Y. KAGAWA, Y. SAKUMA, 計11人 アジアパシフィック地域各国の精神健康度調査及び精神健康度と生理学的検査結果との関連に関する研究。 モンゴル人民共和国で精神健康度調査（GHQ-28、WHO-QOLを使用）及び生理学的検査を実施した。結果、一般住民の精神健康度が明らかとなり、さらにGHQ得点と血中ROM、健康状態の有意な正の相関関連が認められた。研究全体に関わっているため担当箇所は不可分。
3 メンタルヘルスにおけるハラスメント問題（第2報）－大学におけるハラスメント相談システム構築の試み－	共同	平成18年10月	第22回日本精神衛生学会大会（千葉）	上遠文恵、佐久間祐子、早川東作、今村理洋、村上尚美、高島朋子、中野良吾、巖岩奈々 セクシュアル・ハラスメント防止法によって、現在ほぼすべての大学等では少なくとも規則上の防止・相談体制は整備された。セクシュアルでないハラスメント被害を含めた各種ハラスメント対応が統合され整備されはじめたが、困難な相談が激増している。国立大学法人A大学では2006年度から、ハラスメント相談枠を別途設置し、ハラスメント問題への対応の強化を図っている。本報では、本大学におけるハラスメント相談システム構築の流れをまとめた。研究全体に関わっているため担当箇所は不可分。
4 メンタルヘルスにおけるハラスメント問題（第3報）－大学におけるメンタルヘルス相談及びハラスメント相談の実態－	共同	平成18年10月	第22回日本精神衛生学会大会（千葉）	佐久間祐子、上遠文恵、早川東作、今村理洋、村上尚美、高島朋子、中野良吾、巖岩奈々 第3報として、過年度の、ハラスメント事例を含むこれまでの相談活動を振り返り、その実態と問題点を明らかにした。本大学の「保健管理センターカウンセリング室」に来談したケースについて、①相談内容の分類、実態把握、②うち、ハラスメント事例と考えられる事例について、ハラスメントの形態の把握、分類、③それら事例に含まれる大学におけるハラスメント及びハラスメント相談の問題点を明らかにした。研究全体に関わっているため担当箇所は不可分。
5 Psychological Aspects of Inhabitants In The Local Town of Mongol and Pacific Island of Palau by GHQ-28.	共同	平成18年12月	The 38th Asia-pacific Academic Consortium for Public Health Conference, Bangkok	M. SAKUMA, Y. SAKUMA アジアパシフィック地域各国の精神健康度調査及び精神健康度と生理学的検査結果との関連に関する研究。パラオ共和国国立病院にてGHQ-28、WHO-QOLを用いて一般住民を対象としてメンタルヘルス調査を実施した。日本とパラオ共和国の文化差の考察は今後の課題であるが、分析の結果から、日本と比較してパラオが精神的健康度が高い可能性が示された。研究全体に関わっているため担当箇所は不可分。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
6 大学におけるハラスメント相談の実践報告 —ハラスメント相談室立ち上げ初期の実態と課題—	共同	平成20年1月	第11回日本学校メンタルヘルス学会大会（岐阜）	澁澤梨絵、中野良吾、早川東作、今村理洋、上遠文恵、田木 美代子、佐久間祐子 A大学におけるハラスメント対策システムの構築に関する研究。ハラスメント相談室立ち上げ初期の実態を報告した上で、相談員の立場からその問題点や今後の課題を明らかにした。
7 アカデミック・ハラスメントへの認識の実態—ハラスメントに対する認識と自己愛の関連—	共同	平成21年1月	第12回日本学校メンタルヘルス学会大会（東京）	板宮千春、早川東作、佐久間祐子 アカデミック・ハラスメント評価尺度を作成し、学生・教員に自記式調査を行い、その実態を報告した。また、アカデミック・ハラスメントへの認識と自己愛、性差観、セクシャル・ハラスメントへの認識等との関連を検討した。結果、学生よりも教員が、また、准教授・講師よりも教授が、アカデミック・ハラスメントをより深刻であると評定していた。また、アカデミック・ハラスメント評価尺度得点との関連要因は、職種（学生・教員）とセクシャル・ハラスメント評価得点であった。板宮の研究指導として研究全体に関わった。